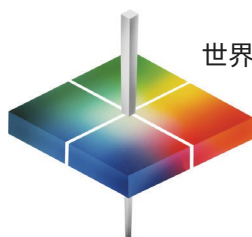


ColorFlex® L2 トマト クイックスタートガイド

A60-1021-531 ver. 2.0



世界における真の色測定

HunterLab

A

装置のセットアップ

1. ACアダプタのプラグを、ColorFlex L2 Tomato の背面にあるポートに接続します。

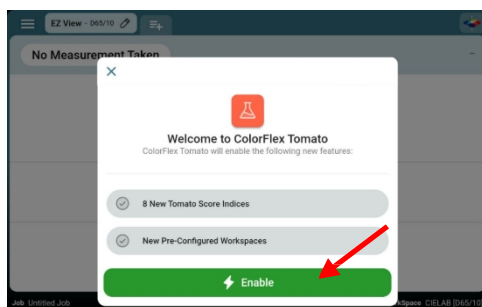


2. ACアダプターの電源コードを壁のコンセントに差し込んでください。
3. 本体の背面にあるスイッチを使って、ColorFlex L2 Tomatoの電源を入れてください。
4. Essentials ソフトウェアが自動的に起動し、「初回セットアップ」ダイアログが表示され、言語、地域、日付、時刻の設定が求められます。設定が完了したら、「完了」をクリックしてください。
5. 上記のセットアップが完了すると、機能を紹介する「ウェルカムウィザード」が表示されます。画面の指示に従って、ソフトウェアの操作に慣れてください。完了すると、装置は標準化の準備が整います。右上隅にある HunterLab アイコンをクリックすれば、いつでもウィザードを再実行できます。
6. (オプション) HDMIケーブルを使用して、モニターをColorFlex L2 Tomatoに接続してください。

B

TOMATO ライセンスの有効化

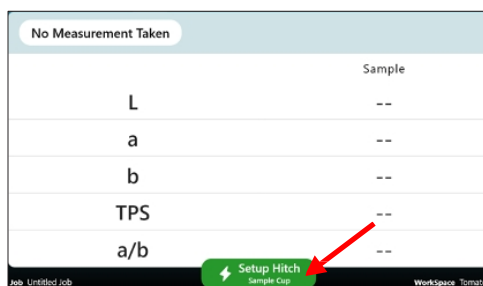
1. Tomatoのライセンスファイルが入ったUSBメモリをColorFlex L2 Tomatoに接続してください。EssentialsはUSBメモリ内のライセンスファイルを自動的に認識し、ダイアログを表示します。「有効化」をクリックして、ColorFlex L2 Tomato Essentialsを起動してください。



C

HITCHの設定

1. 画面下部の緑色のアクションボタン「SETUP HITCH」をタップします。画面の指示に従ってまず標準化を行い、その後、Tomatoタイルを読み込んでヒッチの設定を完了してください。

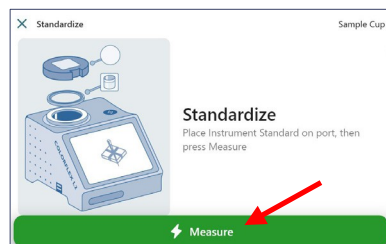


D 標準化

1. サンプルカップ用ポートプレートを取り付けます。センサーポートに「反射率ブラックガラス」をセットします。「MEASURE」ボタンを押します。



2. 指示が表示されたら、「反射率ブラックガラス」を取り外し、ポートに「機器標準（ホワイトタイル）」を置きます。「MEASURE」を押します。



3. 機器標準（ホワイトタイル）を取り外します。次に、診断チェックタイル（グリーントイル）をポートに置き、「MEASURE」を押して続行します。

- サンプルカップインサートを使用して標準化を初めて実行する場合、Essentialsはグリーントイルを5回測定し、その平均値を、タイル裏面に記載された「サンプルカップインサート標準化モード」における今後のグリーントイルチェックの目標値として使用します。
- ユーザーは、特別なインサートやポートプレート用に、システムメニュー → 機器設定 → 診断」で、グリーントイルの目標値をリセットできます。

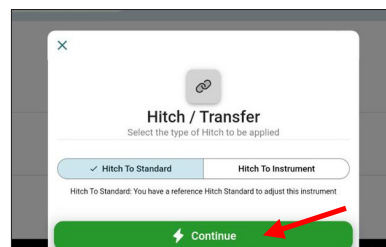


オプション: 診断チェックタイルのテストをスキップするには、「SKIP CHECK TILE」をタップします。スキップすると装置の性能に影響が出る可能性があり、警告メッセージが表示されます。

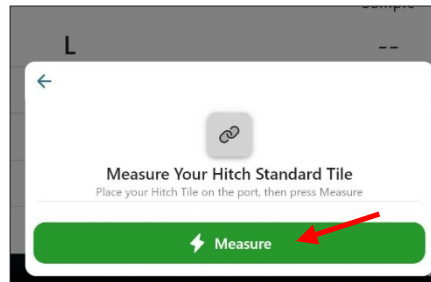
注: 診断用チェックタイルのテストに失敗した場合は、機器標準（ホワイトタイル）、診断用チェックタイル、および／またはブラックガラスを清掃し、テストを再実行してください。問題が解決しない場合は、HunterLab サポートにお問い合わせください。

E トマトタイルへのヒッチ

1. 「HITCH TO TILE」を選択し、「CONTINUE」ボタンをタップしてください。「HITCH TO TILE」とは、基準値がすでに割り当てられているタイルを使用することを指します。「HITCH TO INSTRUMENT」とは、別の機器で以前に測定されたサンプルを使用することを指します。



2. トマト・タイルをポートに置き、「MEASURE」を実行します。

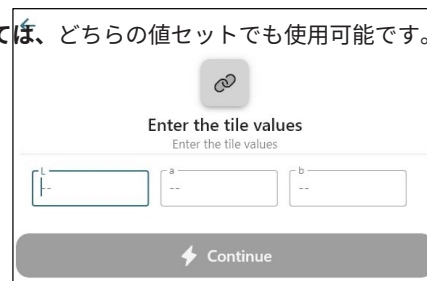


3. トマトタイルの値を入力します。HunterLab Reference Standard-Tomato のラベルには、NIST トレーサブル値と USDA レガシー値の 2 種類の校正値が記載されています。

- スチール基板上の磁器タイルからアップグレードする場合は、「**USDAレガシー値**」を使用してください。
- 釉薬を施したセラミックタイルからアップグレードする場合は、**NISTにトレーサブルな値**を使用してください。
- 新規ユーザーは、以下のルールに従ってください：

◇ **USDAトマトスコア**（例：TPS、TSS、TCS、TJS、TDS）には、USDAレガシー値が必要です。

◇ トマトのa/b比+Lについては、どちらの値セットでも使用可能です。



4. 「ADDITIVE」または「RATIO」のヒッチ計算を選択し、「CONTINUE」を押してください。



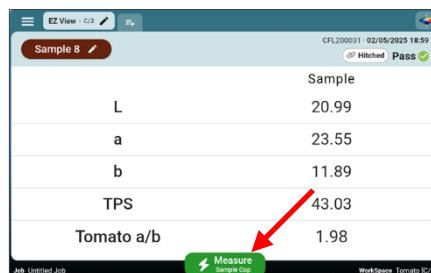
5. ヒッチを更新するには、右下のワークスペース名をタップし、「現在のワークスペースを編集」を選択してから、「標準および許容差」ステップでヒッチを編集してください。

注：ヒッチ調整は、「ワークスペースの編集／基準と許容範囲」に表示されます。

F

サンプルの読み取り

1. 試料を準備し、試料カップに入れます。
2. サンプルをポートに置き、不透明なカバーでカップを覆います。
3. 「MEASURE」を押します。



Sample 8

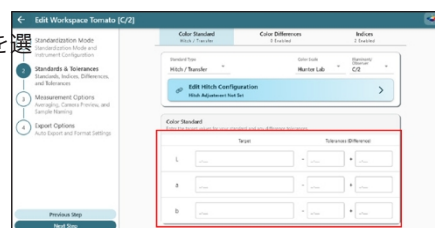
CPL200031 - 02/08/2025 18:59
Hit Check Pass

	Sample
L	20.99
a	23.55
b	11.89
TPS	43.03
Tomato a/b	1.98

Job: Untitled Job Measure (Sample Cup) Workspace: Tomato [C/2]

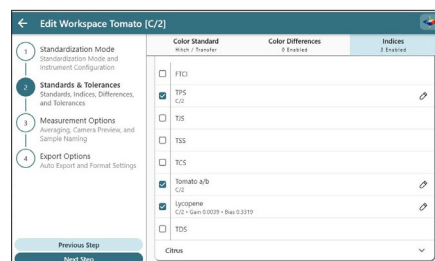
「Hitch/Transfer」標準タイプでは、数値標準を適用できます。

- 画面右下の「WORKSPACE」を押します。「EDIT CURRENT WORKSPACE」を選択します。「NEXT STEP」を押して「STANDARD & TOLERANCES」ステップに進み、Hunter Lab C/2で基準値と許容範囲を入力します。



その他のトマト指標を選択するには：

- 「INDICES TAB」をタップし、下にスクロールして「Tomato Scores(v)」まで移動します。必要なトマト指標にチェックを入れます。鉛筆アイコンを使用して許容範囲を追加します。「絶対許容範囲」または「差分許容範囲」のいずれかを選択します。



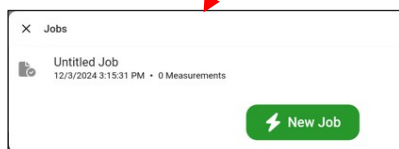
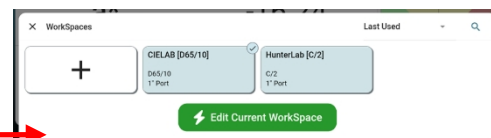
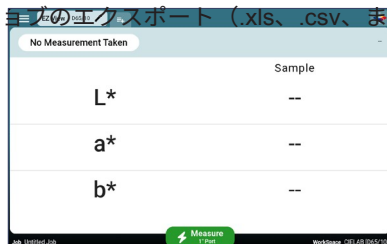
単純な差異を表示するようにEZ VIEWを編集する

- メイン画面で、「EZ View」タブの横にある編集アイコンを選択します。次に、「DISPLAY OPTIONS」を選択します。「SHOW STANDARD」および「SHOW DIFFERENCES」の横にあるラジオボタンをクリックすると、単純な差分が表示されます。

	Standard	Sample	Difference
L	20.85	20.95	0.10
a	23.45	23.42	-0.03
b	11.85	11.86	0.01
Tomato a/b	1.79	1.97	0.18
TPS	37.67	42.86	5.19

ワークスペース/ジョブの変更または追加

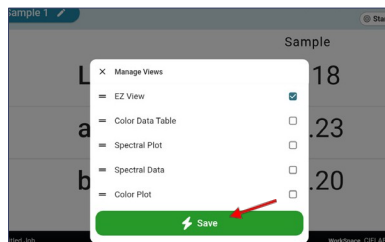
- 画面右下のワークスペース名をタップして、ワークスペースを変更または新規追加します。ワークスペースダイアログに従って、差異や指標の編集、読み取りオプション、データエクスポートオプションなどを設定します。
- 画面左下の「ジョブ」名をタップして新しいジョブを作成するか、既存のジョブをタップしてジョブ名の編集、ジョブの削除・印刷、ジョブのエクスポート（xls、csv、または.pdfファイル）を行ってください。



J

ビューの追加

1. 「EZ View」タブの横に  をクリックして、他のビューを追加します。目的のビューの横にあるボックスをクリック
ある希望するビューの横にあるボックスをクリックしてビューを選
択します。「保存」を押します。

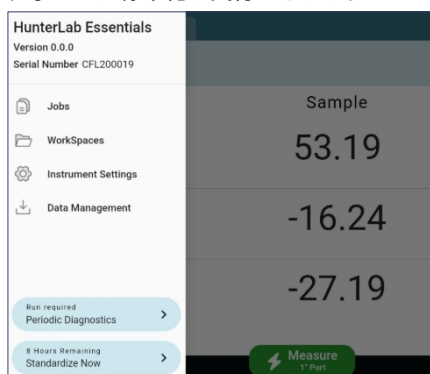


K

「システム」メニューのその他の項目

画面の左上隅にある3本のバーのアイコンをタップして、システムメニューを開きます：

1. 「ジョブ」および「ワークスペース」は、ワークスペース／ジョブダイアログを開くための別の方法です。
2. 「機器設定」では、標準化間隔の選択、ColorFlex EZ 機器からの製品設定のインポート、日付/時刻の変更、言語の選択、画面の向き反転、およびセキュリティ設定を行うことができます。
3. 「データ管理」では、ジョブおよびワークスペースのファイルを .ezm2 形式（外部アプリケーションでは読み取れません）でフラッシュドライブに保存できます。
4. 「定期診断」では、診断のステータスが表示され、ユーザーが診断を実行できるようになります。
5. 「標準化」では、現在のステータスが表示され、標準化を実行できます。



本装置の使用に関するより詳細な手順については、『ColorFlex®L2 Tomato ユーザーマニュアル』をご参照ください。装置のメンテナンス、操作、修理に関する詳細については、support.hunterlab.com をご覧ください。